審 査 の 結 果 の 要 旨

氏　　名　　村舘　靖之

論文「情報と不均衡の動学分析」はマクロ経済モデルの批判的検討を行い、総需要と総供給の乖離した状態が持続するマクロ的不均衡分析の復権を試み、産業連関表に基づく不均衡分析の数値計算（３部門)を行っている。

近年、動学的一般均衡モデルやマクロ経済学のミクロ的基礎付けに関する研究成果が蓄積され、動学的一般均衡モデルに関する研究が著しく発展した。しかし、本論は、不均衡の経済分析が現実的であるという主張を行う。すなわち、ミクロ的基礎を持った不均衡モデルの開発を企図している。そこで本研究は新ケインズ派モデルと不均衡動学モデルを統一的に記述した新しい不均衡動学モデルを提案している。

第一章ではマルテッロ、パレート、ケインズの貨幣に関する議論を中心に、貨幣と不均衡の関係について考察し、第二章では新ケインズ派モデルについて検討を行い、独占的競争の一般均衡モデルという視点で先行研究について検討し、標準的な New IS-LM モデルと粘着的情報モデルについて数値計算を行っている。そして New IS-LM モデルと不均衡動学モデルを統合・一般化した新しい不均衡動学モデルを提示している。第三章では、不均衡動学モデルについて産業連関表を用いて分析を行い、 MATLAB を使った不均衡動学モデルの数値計算を行っている。第四章では、独占的競争の一般均衡モデルおよび不均衡動学モデルの分析から得られたモデルの含意について述べている。

本研究は情報の経済学の観点から、岩井克人の不均衡動学モデルを見直し、その価値を再認識することで、実は不均衡の動学分析が現実的ではないかと問題提起を行っている。そのための手段として、新ケインズ派モデルと岩井モデルの関係の整理し、岩井モデルを含んだマクロ経済モデルの数値計算を試みている。その際、情報の非対称性の度合いが増えれば増えるほど、経済は均衡から離れて、非効率的な状態になり、逆に、経済が均衡に近づき、効率的な状態に近づくほど、情報の非対称性は解消されると述べている。情報と不均衡は深い関係にあり、情報と不均衡の動学分析を行い、情報の経済学の視点から、不均衡動学を再評価、拡張している点に本論文の大きな特徴がある。

本論文の意義は、岩井モデルを新ケインズ派モデルの研究蓄積をふまえ、一

般化・相対化し、より一般的な不均衡動学モデルを構築した点にある。すなわち、本論文は、インフレーションと失業の関係を論じている岩井モデルと動学的一般均衡モデルとの関係を論じ、岩井モデルを相対化し、より一般的なモデルに拡張している。情報の果たす役割に注目し、本来マクロ経済学の中で密接にリンクしている不均衡動学と貨幣論の関係を、新ケインズ派モデル（情報のマクロ経済学）に至る研究の蓄積をふまえた上で、統合的に論じている点は高く評価されるべきである。

本論文は、審査委員会から提起された指摘を克服し、博士論文の水準を十分に満たしている。先行研究の成果を十分に踏まえた上で、大胆かつ創造性豊かな研究であるという評価もなされた。よって審査委員会は、本論文が博士（社会情報学）の学位請求論文として合格と判断するものである。